

平成 30 年度 第 5 回「佐世保市環境教育等推進協議会」議事要旨

日 時 | 平成 31 年 2 月 25 日 (月) 13:55~15:20

報告 (1) 平成 30 年度第 4 回協議会の振り返り《資料 1》	
事務局	<p>《資料 1》について説明</p> <p>第 4 回目を 10 月 25 日 (木) に開催した。 出席者は 8 名、欠席者は 7 名であった。 第 4 回でいただいた、主なご意見と、その対応状況は、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 活動指標にビジターセンターの事業について、計上するのかを委員で協議していただき、ビジターセンターで行われている事業の内、佐世保市事業分を計上することとなった。2. 項目の表現について、第 2 章の 3「具体的な施策の方向性」ではなく、第 2 章の「基本的方向性と具体的施策展開」の表現に合わせて、「具体的な施策展開」とした方が良いのではないかといいた意見であった。対応状況としては、指摘のとおり「具体的な施策展開」に表現を変更している。3. 「取り組み」の表現について、送り仮名をつけるかどうかは明確ではないとの指摘をいただいたので、整理を行っている。4. ページの下段に付ける注記である「脚注」について、番号を振ってはどうかといいた指摘であった。対応状況としては、指摘のとおり番号を振っている。5. 第 1 章の 2「定義」の中の「持続可能な開発のための教育」については、一般的に「ESD」といわれることが多いため、「ESD」と付け加えた方が良いのではないかと指摘をいただいたので、「ESD」を付け加えている。
委員	意見なし

報告 (2) パブリックコメントの結果《資料2》	
事務局	<p>《資料2》について説明</p> <p>パブリックコメントの実施期間については、第4回協議会終了後の11月8日(木)から12月7日(金)までの1ヶ月間実施した。</p> <p>意見は2件あり、2件とも、行動計画に直接関連する内容ではなかった。</p> <p>一つ目の意見は、クルーズ船寄港のための護岸整備や、石木ダムに予算を使わず、あるがままで環境を維持しなくてはならないのではないかといった趣旨の意見であった。</p> <p>本市の回答としては、行動計画に基づいた施策を行い「環境市民」を育てていき、「自然とともに生きるまち させぼ」を未来へ継承していくこととしている。</p> <p>二つ目の意見は、自分の子どものころと比べると、虫が少なくなっていること、及び農薬について問題提起されていた。</p> <p>本市の回答としては、レッドリストを基に、公共工事や開発行為などに対して、助言や情報提供を行っていること。自然観察会の開催など普及啓発を進めていることを紹介している。</p> <p>農薬については、関連する部局が多岐にわたるため、関係部局への情報提供を行うこととしている。</p>
事務局	<p>今回の意見に対しては、本計画に直接関連するものではなかったことから、本計画の内容を見直すということはない。</p>
委員	<p>意見なし</p>

議事 (1) 第2次佐世保市環境教育等推進行動計画について《資料3》	
事務局	<p>《資料3》について説明</p> <p>【40 ページ】</p> <p>先ほど、パブリックコメントの実施について報告したが、その他に、12月12日に、佐世保市議会12月定例会の都市整備委員会においても、報告をしており、特に意見はなかった。</p> <p>その後、1月に市長までの決裁が完了し、本計画の原案が完成し、先週の2月18日(月)に、小島会長と芳賀副会長も委員である「佐世保市環境政策審議会」での報告が完了している。</p> <p>現在、本計画書のデザイン及び印刷について、業務を発注しており、3月末までに完成する予定。</p> <p>本計画が完成した際には、委員へ送付したいと考えている。</p> <p>前回第4回協議会で示した、素案との主な変更点について、説明する。</p> <p>【20、21 ページ】</p> <p>素案では、21ページの「家庭でできる10の取組」を先に掲載していたが、「地球温暖化とは」を説明してから「10の取組」とした方が、流れが良いと考え、掲載順を逆にしている。</p> <p>【24、25 ページ】</p> <p>今年度、長崎県においても、行動計画の改定作業が行われている。</p> <p>県の素案の中で、「各ライフステージにおける環境教育等の基本的方向性」として、各年代ごとにわかりやすくまとめられていたので、2ページ分を新たに追加している。</p> <p>【40 ページ】</p> <p>12月12日以降のスケジュールを追加している。</p> <p>以上が、主な変更点となる。</p> <p>【表紙デザイン】</p> <p>現在校正中である。</p>
委員	<p>表紙上段の夕焼けは、青い方が明るいのではないかと感じられる。</p> <p>タイトルもはっきりしないのではないかと感じられる。</p>
委員	<p>カノコユリの写真は自然の中に、自生している写真が良いと思われる。</p> <p>必要であれば、提供もできる。</p>
副会長	<p>写真は入れ替え可能なのか。</p>

事務局	掲載する数を増やすことは難しいかもしれないが、入れ替えは可能である。
委員	総合計画の会議で、佐世保駅に佐世保らしいものが、全くないとのことで、昨年、佐世保らしさを出すためのシンボル塔のようなものを作ってはどうかと提案した。
副会長	写真のメッセージ性が、伝わらない感じがする。 九十九島はわかるが、魚や植物は、環境教育という面でどういうメッセージがあるのか伝わりにくく、統一感がない印象を受ける。
会長	表紙の裏のページなどに、説明するような項目を設けることは可能なのか。
事務局	検討してみる。
委員	人物の写真は、後姿が多い印象であるが、プライバシーなどへの配慮の関係ということなのか。
事務局	ご指摘のとおり、配慮している関係で後姿が多くなっている。
会長	24、25 ページの余白が勿体ないので、写真や図表などで埋めるのも良いかもしれない。 なるべく余白をなくした方が、環境教育の冊子としては良いのではないか。
委員	計画書はカラーになるのか。
事務局	中身は白黒、表紙はカラーとなる。
会長	ホームページ等で公表されるものは、カラーとなるのか。
事務局	その予定である。
委員	18、19 ページのレイアウトであるが、「条例第6条」と「(4) 学校等」を入れ替え、脚注を19 ページでも良いのではないか。
会長	本計画が効力を持つのは、3月からなのか、それとも来年度（4月）からで良いのか。
事務局	4月からである。

議事 (2) 来年度の事業予定《資料4》

事務局

《資料4について説明》

ここでは、環境部で来年度行う事業について、行動計画の項目ごとに説明する。

【1ページ】

表の太い黒枠で囲っている2019年度が、来年度の目標値となる。

下の表に、その目標値の内訳を記載している。

7番目の「九十九島ビジターセンター事業」の数値については、昨年度の実績に近い数値を入れている。

【2ページ】（あつまれ！エコキッズ！）

幼児向けのイベントとして、「あつまれ！エコキッズ！」を2月に開催することとしている。

内容は、野生生物を題材として環境を学ぶプログラムである「グローイングアップ・ワイルド」を通して、自然や環境について、身近に学べる機会を提供するもので、海きららの協力を得て開催することとしている。

【3ページ】（長尾半島ガイドウォーク）

こちらも幼児向けとなっているが、同時に、長崎短期大学と連携し、保育学科の学生に幼児への指導等の手法も学んでもらうこととしている。

さらに、ビジターセンターとも連携し、講師となってもらうことで、より充実した内容となるよう工夫をしている。

内容としては、まず、学生へ事前学習会を開催し、幼児への接し方や、動植物等の説明の仕方を学んでもらう。

その後、春と秋の2回実際に自然観察会を行う。各家庭に学生が付き添う形で、講師のサポート等を行ってもらう。

また、参加者については、春と秋の季節の違いも体感してもらうことで、より自然への興味を持ってもらえる内容としている。

【4、5ページ】（九十九島を体感しよう！）

来年度からの新たな事業。ビジターセンターと連携し、九十九島の無人島で観察会を行うもの。

場所は、ビジターセンターから船で約30分のところにある金重島。

参加対象としては、上陸場所が岩場になっているため、小学3年生以上としている。

【6ページ】（干潟で生きものさがし）

今年度、新たに始めた事業となり2回目。

内容は、白浜海水浴場の西側にある干潟に生息する生物等の観察会。

講師として、前回同様に川内野委員にお願いしたいと考えている。

【7ページ】（させぼの川を体感しよう！）

例年夏休みに実施しており、大変好評いただいている事業である。

三川内中学校近くの小森川で、川の生物を捕獲し、観察、講師による解説を行うもの。

こちらも、川内野委員に講師を毎年お願いしているものである。

【8ページ】（秋の七草をさがそう！）

今年度、新たに始めた事業となり2回目。

内容は、散策しながら道端に生育している植物等の観察を行うもので、こちらも、川内野委員に講師をお願いしたいと考えている。

【10ページ】（ニッポンバラタナゴ観察会）

ニッポンバラタナゴに対する地域住民の意識や保全意識の向上を図るため、毎年実施している事業となる。

内容は、パネルなどで生態や現状について説明を行い、現地で、観察又は生息状況調査を地元の小学生と行うもの。

また、地元土地改良区が、農地の環境保全活動に位置付けて、本市と合同で実施しているもの。

【11ページ】（させぼエコプラザ各種講座）

させぼエコプラザについては、例年通り、様々な環境学習講座、出前講座、学校支援を行っていく。

【12ページ】（市職員向け自然観察会）

来年度からの新規事業となる。

内容は、散策しながら道端に生育している植物等の観察を通じて、市職員が自然と触れ合う機会を設け、自然を大切に、共存する意識を高めたいと考えている。

【13、14ページ】（どこでも環境教室、長崎県環境アドバイザー）

講師を派遣する「どこでも環境教室」「長崎県環境アドバイザー」を例年通り実施していくこととしている。表は、1月末までの実績。

【15ページ】

市民や市民団体、事業者等に対し講師の派遣ということで、事業内容としては、「どこでも環境教室」「長崎県環境アドバイザー」「させぼエコプラザの出前講座」となっている。

【16 ページ】

地域資源（人材や自然環境など）を活用した環境教育の展開ということで、事業内容は、環境アドバイザー及び環境保全団体等登録数を増やすこと九十九島をはじめとする自然豊かなフィールドを活かした自然体験会等を開催することとしている。

自然体験会の内容については、先ほどご説明したとおり。

【18 ページ】

実践活動の機会創出、環境保全活動支援ということで、事業内容は、環境美化活動等として、市民大清掃などの実施。こどもエコクラブ、環境保全団体等登録団体数を増やすこと。事業者に対しての環境マネジメント取得支援。e 宣言@サセボ認定団体を増やすこととしている。

【19 ページ】

拠点機能の充実ということで、事業内容として、環境教育・温暖化対策の拠点施設である「させぼエコプラザ」での情報発信、講座等を開催することとしている。

【20 ページ】（エコプラザ 主催講座）

月1回程度、「エコクッキング」「リサイクル講座」「かえっこバザール」を開催することとしている。

【21 ページ】（エコプラザ 出前講座）

学校の要望に応じて講師を派遣することや、事業者の環境保全活動に対するインタビューを実施する。

また、地区公民館や児童センターなどの要望に応じて、公民館などに出向き環境体験講座を実施する。

【22 ページ】

市民の方や団体が講座等を行う際、施設の貸出等の支援を行う。

また、年に1度、エコライフフェスを開催する。資料に掲載しているものは、今年度2月2日に開催した様子。

【23 ページ】

発達段階に応じた環境教育の実施ということで、事業内容として、「どこでも環境教室」「長崎県環境アドバイザー」「エコプラザの講師派遣」を学校に活用してもらうこと。また、環境教育に取り組む学校に対し、学校版環境 ISO の認定を行っていく。

委員	<p>7ページの小森川において市内唯一の生息地である生物は、3種類ではなく4種類である。</p> <p>ムギツク、アブラボテ、ヤマトシマドジョウと「イトモロコ」である。</p>
委員	<p>風力発電の開発計画があり、環境部の職員と現地へ行ったが、初めて訪れる方が多く驚いた。</p> <p>市内の著名な場所は環境の面からも、すごく大切なところである。資源を自分たちで確認するという意味合いから、職員の方に実際に行っていたきたい。</p>
委員	<p>職員向けの自然観察会は非常に良い取り組みであるので、回数を増やしてほしい。</p>
副会長	<p>委員も現場を見ないと、どのような状況であるのかが分からないので、できれば、委員が現場を見に行き行って議論ができるような機会を作ってみても良いのではないかと思う。</p>
副会長	<p>黒島に行った時に、観光地として栄えている一方で、海岸でのプラスチックごみが打ち上げられているのを見た。</p> <p>市の予算や権限でやれることは限られてきてしまうのだろうが、佐世保市内のことであるので、そういうことも、委員の方々や、子どもたちに現状を知ってもらって、そして、清掃活動をしたり、市の方でも把握をしてもらうことで、協議会に収まらないかもしれないが、私自身もまだまだ、佐世保市のことを知らないことが多いので、見て、感じて、そしてこういった場で議論していきたいと思う。</p>
会長	<p>現場を知ることは、大変重要なことである。</p>
委員	<p>副会長がおっしゃったとおり、海へ行くとプラスチックごみが大変多い。あれを見ると、捨ててはいけないと思う。</p> <p>環境教育の中で自然観察会も良いが、ごみ観察会をやるもの面白いかもしれない。</p>
委員	<p>地域に住む子どもたち、例えば宇久島などの外海に面したところには、沢山プラスチックごみがあるので、そういう現状を見て、考えさせることは、とても良い教育になる。</p> <p>ごみ拾いやごみの観察や組成調査などをやってもらいたい。</p>
副会長	<p>離島のそういった現状が、あまり知られていないと感じられる。そういったことを発信して行って、知ってもらって、子どもたち、我々大人たちにも考えるきっかけを作っていければと思う。</p>
委員	<p>エコプラザでは、今年度は、猛暑の影響で熱中症が心配されたため、取りやめてしまったが、毎年、カヤックでの清掃活動等を行っている。</p> <p>その他、小中学校へ出前授業に行く際、最近は、マイクロプラスチックが話題で、どこに行っても、授業に取り入れている。</p> <p>特に、海に面している学校については、環境教育のほか、地元の郷土愛にもつながっていくことから、取り入れていきたいと考えている。</p>

委員	漂着ごみは、上五島などで ECAN がやっている。もう少し、近場でやれないのか。
事務局	黒島の方では、市が事業を行っている。ただ、処理しても、また漂着してくるという繰り返しになっている。 ボランティアで宇久などは、集めてもらうが、その回収に環境部が行くということになるが、外から流れてくるものが、多いのではないかと考えられ、なくなる。
委員	テレビでもやっていたが、韓国や中国からのごみを魚が食べて、ダメになってしまう。 そういう話をして、啓発できれば。
委員	黒島にはエコクラブはあるのか。
事務局	ない。
委員	ごみを拾うだけでも良いので、そういうエコクラブが出来ればよいと思う。
委員	高島分校では、本土の相浦小学校との交流授業で、海岸清掃をされている。
会長	どれ位、市内の小中学校が清掃活動を行っているのかを把握しているのか。 道具の貸し出しなどは、県が行っているのか。
事務局	していない。 道具の貸出は、市が行っている。
事務局	市民大清掃を行う際、道路脇の草刈りなどをしていただいているが、怪我等も多い関係で、海や川になるとさらに危険性が増すこととなり、環境部の立場として積極的にやってくださいとは言わずらいところがある。 子どもたちとなると、なおさら、安全に配慮しなければならない。 また、広範囲に及ぶものであるため、県にしる市にしる、予算の確保が難しい状況である。
会長	全国有数の海岸線の長さを誇る、長崎県特有の問題でもある。
会長	先週の環境政策審議会でも漂着ごみの話題がでたが、佐世保市の方で、漂着ごみの量というのは、把握しているのか。
事務局	ボランティア清掃は環境部が回収するが、事業者へ委託しているものは、事業者が処分するため、全体の把握はできていない。
委員	佐世保市のごみの状況は、どのような状況なのか。
事務局	横ばいである。 今工事を行っている、西部クリーンセンターは、ごみが増えない前提で整備を行っている。
委員	テレビでみたが、鹿児島県の日置市では、家庭から出される生ごみを分別・回収し、生ごみの焼却量の削減を目指す「生ごみモニター回収処理事業」に取り組んでいるようだ。

委員	一番ごみで出るのは、生ごみだと思う。佐世保市でできないのか。生ごみが無くなったら、全体のごみの量も少なくなると思う。
事務局	<p>堆肥化の話であるが、食品ロスの問題これをどう減らすかということもある。</p> <p>堆肥の部分では、事業としてできるのかどうか、作ったとして、使ってもらえるのかどうかといった問題もある。</p> <p>そういったところを、現在、担当課で検討、研究中である。</p> <p>環境部としては、食品ロス、ごみを減らすといった部分から研究をしている段階である。</p>
会長	以上で、本日予定していた議事は終了である。

その他	
事務局	<p>今回も、「意見シート」を配布している。</p> <p>今回の協議会で発言できなかった意見などがあれば、3月8日（金）までにFAX やメールで事務局まで提出願う。</p> <p>また、本日で、今年度の協議会は終了となる。</p> <p>委員の方々におかれては、今年度は例年よりも多い回数、協議会を開催したが、大変お忙しい中、ご参加いただき感謝申し上げます。</p> <p>今回欠席の委員にも、今回の議事要旨と意見シートを送り意見をいただくこととしている。</p> <p>頂戴した意見については、来年度以降の環境教育に関する事業へ反映できればと考えている。</p> <p>委員におかれては、今後とも、佐世保市の環境教育について、格別のご理解、ご協力をお願いする。</p>